

地域活性化の本質

—天草の取り組みから

天草市「美しい海に囲まれた島々」

天草市は、熊本県の南西部に位置し、周囲を美しい海に囲まれた島々で、九州本土とは橋でつながっている。豊かな資源を活かした水産業のほか、温暖な気候を活かした柑橘類の栽培や、黒毛和牛、地鶏の天草大王、養豚などの畜産業も盛んな地域である。また、国立公園に指定された風光明媚な自然景観や、南蛮文化やキリシタンの歴史など多くの観光資源にも恵まれ、これらを活用した観光業も主要な産業となっている。

多くの魅力を活かし 均衡ある発展が課題

地方共通の課題ではあるが、本市においても、人口減少・少子高齢化が急速に進んでいる。本市の人口は約8万人で、この10年間で

およそ14・3%減少し、高齢化率は約40%となった。人口減少は、経済活動や地域コミュニティの維持など、住民の生活すべてに影響を与える根本的課題だ。

また本市は、平成の大合併により天草諸島の2市8町が合併して誕生した市で、約648km²の市域を有している。これは、東京23区の合計面積にも匹敵する広さで、その市域に居住地が点在しているため、インフラ整備などの行政コストが割高であり、周辺部の衰退を危惧する声も聞かれる。都市部からも遠く、熊本県の中心地からは車で約2時間を要するため、各種産業の発展や交流人口の増加、災害・医療対策においてアクセス改善も必要だ。合併により得ることができた各地の多くの魅力を活かしながら、人口減少のスピードを緩やかにし、いかにして旧2市8町の均衡ある発展を図るかが、本市の大きな課題である。

天草市長

中村五木

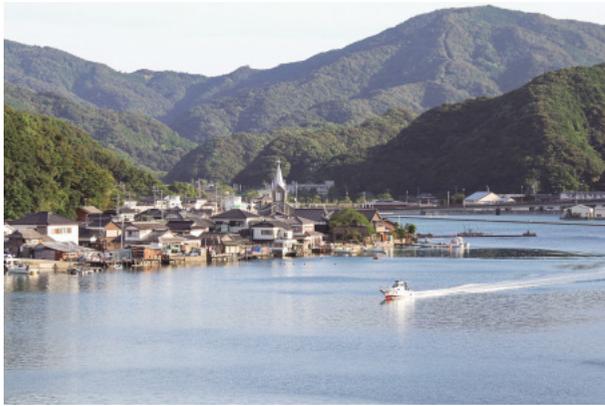
なかむら いつき



経済活動の活性化と 豊かな生活の実現に向けて

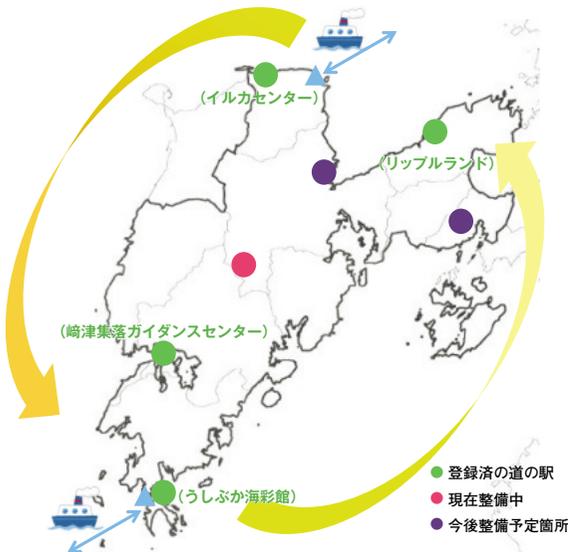
活力あるまちをつくるには、やはり雇用場があり、人々がやりがいを持ってこの地で働くことができなければならない。このため産業の分野においては、産官金が連携して「天草市起業創業・中小企業支援センター」(通称Amabiz:アマビズ)〔無料相談所〕を設立し、民間事業者の起業や事業拡大に関するアドバイスを行い、「多様な働く場の創造」を目指している。

あわせて、市より起業等への資金的補助を行っており、これらの取り組みによって、約4年間(2015年度〜2018年度)で115件の起業と323人の雇用を生み出すことができた。また、基幹産業の担い手の育成も課題であることから、農林水産業への新規就



世界文化遺産「崎津集落」

図表 7つの道の駅



業者に対する給付金や研修制度を創設し、2年間(2017年度~2018年度)で34名の新たな担い手が誕生している。

また、企業誘致施策として、固定資産税の免除、土地購入や建設にかかる補助金、雇用奨励金など県内でも手厚い優遇措置を設けているほか、小中学校の統廃合により遊休資産となっている廃校施設の3年間の無償貸与、その後の減額譲渡、オフィス系企業の誘致のための優遇措置も用意している。

観光振興施策では、2018年7月に世界文化遺産となった崎津集落や天草の海に生息するイルカなど、多くの観光資源を活かした市内周遊型観光を確立するため、「7つの道

の駅」の整備に取り組んでいる。これらを拠点に島内を巡ることで、観光客の滞在時間を増やし、多様な自然や文化に触れ、地方ならではの新鮮な食べものを食して宿泊していただき、より多くの天草ファンを増やしていきたい。

また、住民が地域で安心して快活に暮らすためには、福祉施策などの充実、地域の人々のつながりも重要である。

現在、高校生までの医療費の無償化等による経済的支援のほか、妊娠期から子育て期にわたる包括的な相談支援センターの開設準備を進めており、若い世代が安心して家庭を築き住み続けることができるよう、子育て支援を強化している。

他方、本市には、地域活動の場で中心的な役割を担う元気な中高年者も多く、自主的な運動をポイント化し、地元商店の商品券と交換する「健康ポイント事業」など、住民の健康寿命の延伸に向けた取り組みも推進している。また、このような多くの世代が集い、健康事業や生涯学習の機会を得られる場として、保健センターや図書館、公民館等の機能を有した複合施設「ここらす」を、2020年4月にオープンする。経済活動と両輪となり、住民の生活を健康と文化的側面から豊かにするための、中心的役割を担う狙いだ。

活力湧き出るまちづくりに向けて

これ以外にも本市では、主要道路の整備促進や住民組織の設置・支援なども含め、多方面から地域活性化に取り組んでいる。なかでも、産業の振興にかかる施策はその土台となるものであり、強力に、かつスピード感を持って推し進める必要がある。活気ある経済活動は人々の生活の糧となり、希望と活力を与え、元気なまちづくりへの好循環をもたらすものであると、確信しているからだ。

まちをつくるのはそこに暮らす人々であり、そこで生まれる活動や交流が盛んであるほど地域が活気づく。一人ひとりが希望を持って日々を過ごし、住民・企業・行政として、それぞれに役割を見いだしながらともに歩み、奮闘し、常に活力の湧き出るまちづくりにまい進しなければならぬ。それこそが、地域活性化の本質であると、私は考えている。